

令和7年度 江戸川区立東葛西中学校 学校関係者評価報告書（学校経営計画・学校関係者評価シート）

学校教育目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>自ら進んでよく学びよく働く生徒になろう。</li> <li>心身ともに健康で粘り強い生徒になろう。</li> <li>豊かな個性を育て社会に役立つ生徒になろう。</li> </ul>	目指す学校像 目指す生徒像 目指す教師像	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒が自ら考え、判断、行動を起こし、日々成長を実感できる学校</li> <li>人権尊重の精神を生かし、自分も人も大切にす、いじめのない学校</li> <li>教職員一人一人が力を最大限に発揮し、使命感をもって組織的に生徒の育成に努める学校</li> <li>地域からも応援され、卒業生や保護者からも誇りに思われる学校</li> </ul>
前年度までの本校の現状	成果 <ul style="list-style-type: none"> <li>授業改善とICT機器の積極的な活用により、生徒の授業への満足度は80%を超えた。全国や区学力調査等でも平均を上回ることができた。</li> <li>校内検討委員会の定期的な情報共有により、関係諸機関と積極的に連携し、どこもつながっていない生徒ゼロに向けての取組が組織化され、エンカレッジルームを整備し、生徒の居場所づくりとすることができた。</li> </ul>	課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>全国や区学力調査からは、知識を問う問題では平均を上回るものの、記述式問題の得点率が低いことから、知識を活用して自分の考えを構築・説明する力が十分に育っていないと推察される。</li> <li>不登校生徒および不登校傾向の生徒が7%おり、高止まりしている現状がある。</li> </ul>

重点	取組項目	具体的な取組内容	数値目標	達成度		「中間」自己（学校）評価（A～D）		「中間」学校関係者評価（A～D）		「年度末」自己（学校）評価（A～D）		「年度末」学校関係者評価（A～D）		次年度に向けた改善案
				9月	2月	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	
学力向上	・生徒の基礎学力の定着とその伸長を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒授業アンケートを通して授業改善プランを策定させ、基礎学力の定着を図り、深い学びにつなげる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の授業満足度80%以上にする。</li> <li>区学力調査で、全体平均正答率を前年度比+2ポイント以上向上させる。</li> </ul>	80%	85%	B	生徒が主体的に学習に取り組める授業づくりを目指し、授業方法や教材の工夫など授業改善を進めている。その結果、授業の満足度は85%を超えている状況となっており、今後も学びの充実につながる授業づくりに取り組んでいく。	B	授業改善への継続的な取り組みは評価できる。また、授業の工夫が学力の定着につながっていると考えられる。今後も取組の継続とさらなる充実を期待したい。	A	2年生の経年比較では、区学力調査の正答率も国語66.6%から67.1%、数学59.3%から64.2%へと伸び、授業の質の向上が学力の定着につながっている。今後もさらなる授業力向上を目指す。	A	経年比較では、正答率が向上しており、授業の工夫が学力の定着につながっていると評価できる。来年度の経年比較で、現1年生の学力向上も期待したい。また、今後も取組の継続を期待したい。	引き続き、教員の授業力改善に向けて校内研修を重ね、生徒の学力向上につなげる。
	・単元ごとの目標明確化と振り返り活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>単元ごとに「目標→活動→評価→振り返り」が記録できるシートを導入（端末等を用いてもよい）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>単元ごとの「めあて」提示率100%</li> <li>振り返りに「学びがあった」と答える生徒の割合80%以上</li> </ul>	70%	75%	B	単元ごとの「めあて」を意識した授業づくりを進め、各教科で提示方法の工夫や共通理解を図っている。また、振り返り活動を取り入れ、生徒が自らの学びを言語化できるよう指導を重ねている。	B	授業において「めあて」を明確に示す取組や、振り返りを通して学びを自覚させる指導を進めていることは評価できる。生徒が主体的に学びを実感できる授業づくりが進むよう、今後の取組の充実を期待したい。	B	振り返りにおいて「学びがあった」と回答する生徒の割合も84%となり、生徒が学習内容を自覚できる授業づくりが進んだ。今後も質の向上を図っていく。	A	授業の見直しをもたせる取組が定着している。また、振り返りで「学びがあった」と感じる生徒が80%以上となっており、生徒の主体的な学びにつながっていると評価できる。	来年度はさらに、振り返り活動を充実させる。
	・読書科の更なる充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校図書館支援と連携した利用時の機能を充実させる。</li> <li>本屋大賞や夏の推薦図書など、読みたくなる本を充実させる。</li> <li>各学年の読書科の計画に沿って、調べ学習と探究的活動の充実を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>図書館利用率と生徒の読書量を前年度比+2%以上とする。</li> <li>3年間での系統的な活動を通して、iPadでの検索だけでなく、書物を用いて調べることや読書活動によさを感じる生徒を前年度比+5%以上とする。</li> </ul>	50%	50%	C	図書館の利用促進を図るため、ビブリオバトルのチャンプ本の展示を行った。iPadによる検索だけでなく、書物を活用した調べ学習や読書活動のよさを実感できるよう、学年に応じた取組を行っている。	B	図書館の利用促進や読書活動の充実に向け、授業と連動した取組を進めていることは評価できる。ICT活用が進む中で、書物を用いた調べ学習の価値を生徒が実感できるよう、今後の取組の継続を期待したい。	C	図書館の利用促進や読書活動の充実に取り組んだが、図書館のバーコード化に伴い使用に制限があったこともあり、読書量の増加には至らなかった。	B	ICTと紙の資料をバランスよく活用する学習が進んでいる点は評価できる。今後のさらなる取組に期待したい。	読みたくなる本を増やす、図書館の開館時間を増加させるなどし、読書量の増加に努める。
体力向上	・年間を通じた「運動チャレンジ企画」（800m走の計測等）の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>体育授業中の「中強度以上の運動」時間を 授業の30%以上に設定</li> <li>体力テストのデータを活用した個別支援と目標設定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学年平均体力テストスコアを 前年比+1ポイント以上とする。</li> </ul>	50%	60%	B	体育授業において運動量の確保を意識し、活動時間や内容の工夫を進めている。また、体力テストの結果を基に生徒一人一人が目標を設定できるよう指導し、体力向上に向けた意識づけに取り組んでいる。	B	体育授業において運動量の確保や体力テストの結果を活用した取組を進めていることは評価できる。生徒が自分の体力の状況を理解し、主体的に体力向上に取り組めるよう、今後の取組の充実を期待したい。	B	活動内容を工夫するとともに、体力テストの結果を基に目標設定と個別支援を行った。その結果、標準偏差得点は1年45.74、2年47.94、3年49.36と学年が上がるにつれて向上している点は評価できる。今後も体力向上に向けた継続的な取組を期待したい。	B	体育授業における運動量確保の取組により、標準偏差得点が1年45.74、2年47.94、3年49.36と学年が上がるにつれて向上している点は評価できる。今後も体力向上に向けた継続的な取組を期待したい。	体育授業において「中強度以上の運動」時間の確保を継続するとともに、体力テストの結果を活用した個別の目標設定と支援の充実を図る。
	・日常的な運動習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> <li>運動が苦手な生徒への段階的な指導</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>運動が「好き」と答える生徒の割合を80%以上にする。</li> </ul>	-	86%	A	運動が苦手な生徒に対しては段階的な指導や活動内容の工夫を行い、無理なく取り組めるよう配慮している。	A	体育授業において個に応じた指導や運動量の確保に取り組んでいることは評価できる。	A	「運動が好き・やや好き」と回答する生徒は全校で86.4%となり、運動に対する肯定的な意識の向上が見られた。	A	生徒の運動への意欲を高める取組が成果として表れており、今後のさらなる充実を期待したい。	今後も取組を継続していく。
実現に向けた共生社会の推進	・特別支援教育コーディネーターを中心とした特別支援校内委員会の充実。	<ul style="list-style-type: none"> <li>特別支援校内委員会で対応方針を決定し、各学年に提案、巡回指導教員と担任教員との連携強化など組織体制を構築する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>特別支援校内研修会の週1回の確実な実施と情報共有。</li> <li>巡回指導教員と担任の週1回の情報共有。</li> </ul>	90%	90%	A	巡回指導教員と担任との定期的な情報共有を行い、個に応じた支援の充実を図っている。	A	特別支援に関する校内研修会を定期的実施し、教員間での共通理解を図っている点は評価できる。また、巡回指導教員と担任との連携により、きめ細かな支援体制の構築が進んでいることから、今後の継続した取組を期待したい。	A	指導方法や支援に関する情報共有を継続的に行った。また、巡回指導教員と担任が週1回の情報共有を行うことで、児童生徒の実態に応じた支援の充実につなげることができた。	A	教員間の共通理解が深まっている点は評価できる。また、巡回指導教員と担任との定期的な情報共有により、個に応じた支援が組織的に行われていることは意義がある。今後も体制の充実と継続を期待したい。	今後も取組を継続していく。

不登校・いじめ対応の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の居場所づくりときずなづくり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>SC/SSW・外部機関との連携。</li> <li>エンカレッジルーム（別室支援事業）活用の推進。</li> <li>不登校対策委員会を週1回実施し、情報共有と個に応じた支援や対策を協議する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>どこともつながりのない生徒をゼロにする。</li> <li>エンカレッジルームとSCの利用生徒数を前年度より増加させる。</li> </ul>	90%	90%	A	SC・SSWや外部機関と連携しながら、生徒一人一人の状況に応じた支援を進めている。また、エンカレッジルームの活用を推進し、生徒の居場所づくりに取り組んでいる。さらに、不登校対策委員会を週1回実施し、情報共有と支援方針の検討を行っている。	A	SC・SSWや外部機関との連携を図りながら、生徒の状況に応じた支援を進めている点は評価できる。また、エンカレッジルームの活用や不登校対策委員会の定期的な実施により、生徒の居場所づくりが組織的に進められている。今後のさらなる充実を期待したい。	A	SC・SSWや外部機関との連携、エンカレッジルームの活用、不登校対策委員会の定期的な実施により、生徒の状況に応じた支援と居場所づくりが組織的に進められている点は評価できる。多様なニーズに応じた支援体制が整いつつあり、今後の継続とさらなる充実を期待したい。	今後も取組を継続していく。		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>いじめの早期発見・早期対応・早期解決を組織的に行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>L-gateによる、毎日の生活チェック</li> <li>月1回、いじめ防止アンケートを実施する。</li> <li>いじめ対策委員会を週1回実施し、職員の情報共有を徹底する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>L-gateのメモ機能の利用を全校で向上させる。</li> <li>長期不登校生徒を前年度比-2%とする。</li> </ul>	70%	70%	B	毎日のL-gateでのチェックを通して生徒の小さな変化の把握に努めている。また、月1回のいじめ防止アンケートを実施し、早期発見・早期対応につなげている。さらに、いじめ対策委員会を週1回開催し、情報共有と組織的な対応の徹底を図っている。	B	日常的なチェックや定期的ないじめ防止アンケートの実施により、生徒の状況把握に努めている点は評価できる。また、いじめ対策委員会を定期的に開催し、教職員間の情報共有を徹底していることから、組織的な対応が進められている。	B	日常的な観察やアンケート、定期的ないじめ対策委員会の実施により、いじめの早期発見・早期対応の体制が整っている点は評価できる。組織的な対応が機能しており、生徒の安心につながっている。今後の継続と充実を期待したい。	今後も取組を継続していく。		
学校（園）の地域社会に開かれた実現	<ul style="list-style-type: none"> <li>自校の取組の積極的な発信</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教員によるホームページの主体的な更新。</li> </ul>	週3回以上の更新。	80%	70%	C	業務の状況により更新が滞る場面も見られた。	C	継続的な情報発信に向けた体制づくりの工夫が求められる。	C	週3回以上の更新については十分に達成できない時期もあった。	B	更新頻度にはばらつきが見られる点は課題である。体制の改善と取組の充実を期待したい。	今後は役割分担や計画的な運用を見直し、安定した情報発信の充実を図る。
	<ul style="list-style-type: none"> <li>ボランティア活動の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒会からのボランティア活動、積極参加についての発信を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>前年度よりボランティア活動参加生徒を増やす。</li> </ul>	50%	60%	C	周知が十分ではなく、参加人数が限られてしまう場面があった。	C	ボランティア活動がさらに充実する環境を作っていくほしい。	C	内容の周知や参加しやすい環境づくりを工夫し、参加の促進を図っていく。	B	主体的な参加が広がるよう今後の改善を期待したい。	今後も取組を継続していく。
教育の特色ある展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>「学校における働き方改革プラン」や「部活動の方針」に従った取り組みにより生徒と向き合う時間を確保する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>回覧・ICTを活用し会議を精選する。</li> <li>分掌主任の進捗状況の把握による短時間で効率的な会議の実施。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全教員、月残業時間50時間以下。</li> </ul>	45%	50%	C	時期によっては超過する教員も見られる。引き続き業務分担の工夫や会議の精選等を進め、改善を図っていく。	C	教員の働き方改革に向け、業務の効率化や見直しに取り組んでいる点は評価できる。	C	全教員の月残業時間50時間以下の達成には至らない状況も見られた。今後は業務量の適正化や校内体制の改善を図り、働き方改革を一層推進していく。	C	教員の働き方改革に向けた取組は進められているものの、全教員の残業時間50時間以下の達成には課題が残る。教員の負担軽減に向け、業務の見直しや体制の改善を一層進めていくことを期待したい。	今後も取組を継続していく。
	<ul style="list-style-type: none"> <li>「みそあじ」運動の徹底で自己肯定感を向上させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>あいさつ運動等、生徒主体の取り組みを充実させる。</li> <li>フォーサイト手帳を用いた時間管理。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒会による「みそあじ」運動に関わる活動参加生徒の前年度比+10%以上とする。</li> <li>1年を通しての使用でアンケートを実施し、課題と成果をまとめる。</li> </ul>	70%	80%	B	場面に応じた声かけや学級での指導を通して、生徒の意識向上を図っている。	A	生徒が自ら意識して行動できるよう、今後の継続的な取組を期待したい。	B	継続的に指導を行った結果、基本的な生活習慣の定着が見られるようになった。引き続き、生徒が主体的に実践できるよう指導を充実させていく。	A	継続的な指導により定着が図られている点は評価できる。生徒が自ら進んで実践する姿勢の育成に向け、今後のさらなる取組の充実を期待したい。	今後も取組を継続していく。